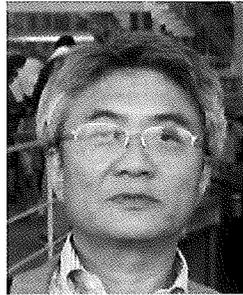




「私の夢 “熊本ホスピタウン構想”」

医療法人 相生会
にしくまもと病院
院長 林 茂



“熊本ホスピタウン構想”というのは、熊本市の南のエントランス富合町に、病院を核にした、子供からお年寄りまで、病気の人でも健康な人も、一緒に安心して住める、明るく、やさしいバリアフリーの町を創る計画です。ホスピタウンとは、ホスピタルとタウンを合わせた言葉で、健康で住みやすく、ホスピタリティにあふれた“まち”で、医療、福祉、保健と周辺の居住と仕事の5つのゾーンがあり、医療ゾーンの中心に「にしくまもと病院」を造るのが

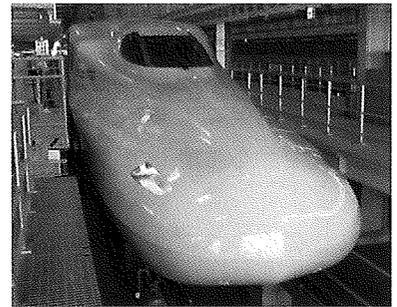
私の夢です。

当院の西側には、九州新幹線熊本総合車両所が、3月12日の全線開通を待つばかりで、JR鹿児島本線の富合駅も隣接して開業予定なので、博多、鹿児島は通勤圏になります。

また来年4月、熊本市は政令指定都市になり、富合に南の区役所ができる予定です。人口が一番多い団塊の世代である私達が、次の世代に迷惑をかけず、終の住処として、安心して生活できる、町を造りたいと思っています。

にしくまもと病院は、146床のリハビリテーション病院で、脳血管、運動器、排泄のリハビリ、膝や肩の関節鏡や人工関節の手術、治験（臨床薬理センター）等を行っています。回復期リハビリテーション病院として、熊本市の高度急性期病院（熊本医療センター等）と、宇城地域の慢性期や維持期の病院や施設を結ぶハブ機能を持ち、訪問診療や訪問看護、通所リハや訪問リハ等在宅分野にも力を入れています。これから、熊本ホスピタウンの核となり、信頼される病院としてハード面の充実が求められており、今年、病棟や外来、手術室、リハビリ部門等の増改築工事に着工します。

博多や鹿児島そして阿蘇や天草に60分で行ける、利便性に富んだ富合町に熊本ホスピタウンを創るという、私の“夢”に向かって頑張りますので、よろしく願い致します。



熊本総合車両基地見学会にて